

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 大信田 真史さん（花巻市）

取材担当 中部農業改良普及センター 田村 七海

花巻市高木の**大信田真史さん**を紹介します。

大信田さんは、自分自身で営農してみたいとの強い思いから、農事組合法人勤務を経て令和4年に独立し、施設ピーマン10aで営農を開始しました。

現在の経営面積は、施設ピーマン18a、アスパラガス1.3aです。

大信田さんは、令和5年にかけてハウスを増棟した際に、施設管理の時間の増加が負担になっていると感じていました。

この負担増は、今後、規模拡大していく際にも大きな課題となると考え、令和5年に「新規就農スタートアップ支援事業」を活用してハウスの側窓自動換気装置を導入し、管理時間の短縮化に取り組みました。

朝晩のハウスの開閉作業を自動化したことにより、ハウスの開閉作業に要していた時間を他の管理作業に回すことができるようになりました。その結果、酷暑だった令和5年においても、栽培期間を通してピーマンの草勢を維持することができました。

省力化の手応えをつかみ、「今後もピーマンの反収向上を目指して様々な取組を行いたい」と語る大信田さん。

今後、25aまで規模拡大を計画していますが、そのすべてのハウスに側窓自動換気装置を設置する予定です。

花巻地域のピーマン生産者として今後の活躍が期待されます。



新規就農者の大信田真史さん



導入した側窓自動換気装置